



千葉市立誉田中学校 学校だより

## 誉田のかぜ

学校だよりはHPにも掲載してあります

第25号

令和6年3月11日発行

千葉市立誉田中学校

TEL291-0012

### ◆誉田中を巣立つ 君たちへ◆

春が待ち遠しい季節となりました3月8日(金)、第77回卒業証書授与式を無事に終えることができました。季節外れの寒空の中でしたが、お陰様をもちまして、心温まる式となりました。(卒業証書授与式 校長式辞より)

暖かい春の日差しが、待ち焦がれる弥生3月、174名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日は、ご来賓として千葉市教育委員会をはじめ、学区小学校の校長先生、青少年育成委員会、学区自治会、PTAの皆様方のご臨席のもと、本校 第77回卒業証書授与式を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

保護者の皆様には、お子様が9年間の義務教育を無事に終えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。中学校の3年間は心も身体も急速に変化することから、戸惑い、ご苦労もあったでしょうが、皆様の慈しみによって、ご覧のように心身ともに大きく成長しました。

さて、誉田中学校を巣立っていく皆さんに、卒業に向けて1つお話をします。これから皆さんが生きる社会は、情報化、グローバル化、人工知能の発達など、社会的変化は加速度を増し、予測困難な時代を迎えます。未来の社会においては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、個人や社会の成長のために必要な、新たな価値を生み出していくことが求められます。

多くのものが変化をしても、変わらないものと変えてはならないものがあります。これを、不易と流行と言います。不易とは、いつまでも変わらないもの、流行とは不易の中に新しい変化を取り入れることを指す言葉です。この2つをバランスよく自分の中で考え、判断し、行動することが望まれます。

また、2011年の東日本大震災、今年の元日に発生した能登半島地震など、自然災害がいつ、どこで起こってもおかしくない状況が続いています。科学技術立国として繁栄を極めた富める国 日本 という幻想は連続した大震災、自然災害により完



全に打ち砕かれました。そして、人と地球、科学文明と自然、人が大自然の一員として生きていることを強烈に気づかされました。同時に、君たちは、好むと好まざるとに関わらず、日本再建を担う中心世代として、確実に運命付けられてしまったわけです。これからは、常に社会を考え、総合的な判断ができ、行動するという「生き抜く力」の知性と知恵を身に付けなくてはなりません。その上で、他人のために祈り、人を気遣う温かい心も育まなければなりません。そのために学び、身に付けた学びを如何に社会に還元するかを常に考えていかねばならないのです。

これからの数年間は、心や体を鍛える大事なときです。是非、様々なことにチャレンジする気持ちを忘れず、頑張っしてほしいと思います。

さて、4月からは、自分が選んだ新しい進路先での生活が始まります。新しい進路先の生活では中学校とは違う場面に多く出会い、戸惑うこともあるでしょう。しかし、皆さんは、中学校で多くのことを学び、様々な体験を通して社会生活に必要な術（すべ）を身に付けてきました。本日の卒業を新たな出発点として、更に心豊かでたくましい人間となることを強く希望します。

保護者の皆様、お子様を3年間お預かりし、教職員一同、精一杯見守ってまいりました。思春期を迎えて心身ともに不安定な日々を過ごすお子様を見て、心配なことも多々あったかと存じます。しかし本日、このように立派に成長して巣立とうとするお子様の姿を、見ることができました。これもひとえに、誉田中学校の教育活動へのご理解・ご協力の賜物であると、感謝にたえません。改めて、皆様にお礼を申し上げますとともに、大人への階段を更に昇ろうとするお子様をこれからも支えてくださりますようお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん。名残惜しいですが、お別れです。

それぞれの進路先における皆さんのご活躍を祈るとともに、再びお会いできる日を楽しみにしています。

結びに、ご来賓の皆様、保護者、地域ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、本日ご列席の皆様のご健勝を心からお祈りし、卒業生の前途に幸多かれと祈念しまして、校長式辞といたします。

令和6年3月8日 千葉市立誉田中学校 校長 北島 啓行

